

令和5年度決算に基づく地方公会計の概要について

令和7年3月28日
総務部財政課
043-223-2076

- 県が保有する資産・負債や、行政サービスに要するコストなどについて、企業会計の考え方を活用して明らかにするため、総務省が示した「統一的な基準」により、令和5年度決算におけるバランスシート等の財務書類を作成しました。
- 普通会計のバランスシートでは、令和4年度決算と比べて、
 - ・ **資産は**、翌年度の財源等に活用するための基金の積立や、道路等の固定資産の増加や減価償却などもあり、**同額の4兆4,391億円**
 - ・ **負債は**、地方交付税の振替えとして発行している**臨時財政対策債※**の残高が減少したことなどにより、**540億円減の4兆808億円**
 - ・ その結果、**純資産は、540億円増の3,583億円**となっています。

※臨時財政対策債の元利償還金相当額は、後年度に全額交付税措置されます。

目次

1	はじめに	3 頁
2	普通会計財務諸表	4
	(1) 貸借対照表 (バランスシート)	4
	(2) 行政コスト計算書	8
	(3) 純資産変動計算書	10
	(4) 資金収支計算書	11
3	連結財務書類	12
	(1) 貸借対照表 (バランスシート)	13
	(2) 行政コスト計算書	14
	(3) 純資産変動計算書	15
	(4) 資金収支計算書	16
	【参考 1】固定資産台帳の概要	17
	【参考 2】主な指標の状況	18

1 はじめに

(1) 意義・目的

- ・ 地方公共団体は、公共の福祉の向上等を目的として、法令等に基づき徴収した税金によって事業を実施しています。そして、事業に必要な予算の編成や執行にあたっては、議会によるチェックが必要であることから、地方公共団体の会計は、予算額の増減や予算の執行状況を確認しやすい現金主義・単式簿記が採用されています。
- ・ 一方、現金主義・単式簿記は、民間企業の会計で明らかにしている、資産・負債といったストック情報や、減価償却費・退職手当引当金を含むコスト情報が見えにくいといった課題もあります。そこで、国は「統一的な基準」を策定し、各地方公共団体の会計について、民間企業の会計が採用している発生主義・複式簿記の形でも示すよう推奨しており、千葉県においても、平成 28 年度決算から毎年「統一的な基準」に基づく財務書類を作成しているところです。

(2) 財務書類の種類

貸借対照表 (バランスシート)	県が保有している道路や学校等の有形固定資産や出資金・基金などの資産の状況と、地方債などの負債の状況、これらを差し引いた純資産の状況を表したものです。
行政コスト計算書	当該会計年度の行政活動による発生コストと受益者負担などとの関係を表したものです。
純資産変動計算書	貸借対照表における純資産の期首から期末への変動を表したものです。
資金収支計算書	経常的な行政経費や資産形成に係る経費などの区分ごとに、一年間の現金の変動要因を表したものです。

2 普通会計財務書類

(1) 貸借対照表（バランスシート）

貸借対照表は、基準日である令和6年3月31日時点において、県が行政サービスのために保有している道路や学校、出資金や基金などの資産に対し、将来世代の負担である地方債などの負債と、資産から負債を除いた純資産の残高がどのくらいあるのかを表したものです。

□ 令和5年度決算の貸借対照表（令和6年3月31日現在）

（単位：億円）

資産の部		負債の部	
固定資産	42,393	固定負債	37,112
有形固定資産	30,601	地方債	33,715
事業用資産	8,653	長期未払金	29
インフラ資産	21,886	退職手当引当金	3,244
物品	61	損失補償等引当金	77
無形固定資産	5	その他	46
投資その他の資産	11,788	流動負債	3,696
投資及び出資金	1,311	1年以内償還予定地方債	3,230
長期延滞債権	91	未払金	7
長期貸付金	485	賞与等引当金	397
基金	10,137	その他	62
その他	▲ 235	負債合計	40,808
流動資産	1,998	純資産の部	
現金預金	398	純資産	3,583
未収金	52		
短期貸付金	62		
基金	1,486		
その他	▲ 0	純資産合計	3,583
資産合計	44,391	負債及び純資産合計	44,391

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント

○ 資産総額は 4 兆 4,391 億円です。

内訳は、学校や道路橋りょうなどの**有形固定資産**が 3 兆 601 億円であり、資産の大半を占めています。

このほか、投資・出資金や基金などの**投資その他の資産**が 1 兆 1,788 億円、現金預金や当該年度に調定した県税等の収入未済金からなる**流動資産**が 1,998 億円となっています。

※県管理国道など県が所有していない資産（取得価額 1 兆 807 億円）については、統一的な基準に従い、資産としては計上しておりません。しかしながら、これらの資産は、その整備費用を県が地方債等で負担しており、その負担分は負債の部に計上されます。

○ 負債総額は 4 兆 808 億円です。

このうち、支払期限が令和 7 年度以降である**固定負債**が 3 兆 7,112 億円、翌年度（令和 6 年度）中に支払期限が到来する**流動負債**が 3,696 億円となっています。負債の主なものは、地方債や将来の退職手当の支払いに必要となる退職手当引当金などです。

○ 純資産総額は 3,583 億円です。

純資産は、資産総額から、資産形成に当たって、将来の負担となる負債を除いているので、これまでの世代が負担してきた額を示すことになります。

なお、地方交付税の振替のため発行を余儀なくされている**臨時財政対策債を除いた場合**、負債が 1 兆 8,866 億円減少するため、**純資産は 2 兆 2,449 億円**となります。

※臨時財政対策債の元利償還金相当額は、後年度に全額交付税措置されます。

【用語の説明】

○資産の部

- ・ **事業用資産**…県庁舎、学校や公の施設などの、行政サービスを提供するために使用される資産です。
- ・ **インフラ資産**…道路・河川等、システムまたはネットワークの一部であることなどの特徴を有し、住民の社会生活の基盤となる資産のことです。
- ・ **物品**…取得価額 50 万円以上の備品（車両等）です。
- ・ **無形固定資産**…県が保有するシステム等のソフトウェアを計上しています。
- ・ **長期延滞債権・未収金**…収入未済額のうち、前年度までに調定したものを長期延滞債権、当該年度に調定したものを未収金として計上しています。
- ・ **現金預金**…地方公共団体の歳入歳出に属する現金である歳計現金及び地方自治体の所有に属さない現金、例えば、入札保証金や職員の給与に係る所得税などの歳計外現金の残高を計上しています。

○負債の部

- ・ **長期未払金・未払金**…債務負担行為のうち物件の引き渡し等によって確定した債務や P F I 等の手法により整備した資産の債務に係る将来負担額です。
- ・ **退職手当引当金**…年度末に全職員が退職したと仮定した場合の退職手当支給見込額です。
- ・ **損失補償等引当金**…公社等に係る損失補償債務のうち、県が将来負担する可能性のある額として算定したものです。
- ・ **賞与等引当金**…翌年度 6 月に支払われる期末勤勉手当のうち、当該年度の負担相当額に対応する分です。
- ・ **その他**…ここでは、屋外照明灯 LED・学校空調設備などのリース資産などを計上しています。

□貸借対照表の前年度比較

(単位：億円)

資産の部	令和5年度	令和4年度	差額
固定資産	42,393	42,483	▲ 90
有形固定資産	30,601	30,745	▲ 144
事業用資産	8,653	8,688	▲ 35
インフラ資産	21,886	22,001	▲ 115
物品	61	56	5
無形固定資産	5	4	1
投資その他の資産	11,788	11,734	54
投資及び出資金	1,311	1,311	▲ 0
長期延滞債権	91	93	▲ 2
長期貸付金	485	525	▲ 40
基金	10,137	10,037	100
その他	▲ 235	▲ 232	▲ 3
流動資産	1,998	1,908	90
現金預金	398	417	▲ 19
未収金	52	48	4
短期貸付金	62	72	▲ 10
基金	1,486	1,371	115
その他	▲ 0	▲ 0	▲ 0
資産合計	44,391	44,391	▲ 0

負債の部	令和5年度	令和4年度	差額
固定負債	37,112	36,954	158
地方債	33,715	33,697	18
長期未払金	29	37	▲ 8
退職手当引当金	3,244	3,120	124
損失補償等引当金	77	83	▲ 6
その他	46	17	29
流動負債	3,696	4,394	▲ 698
1年以内償還予定地方債	3,230	3,947	▲ 717
未払金	7	7	0
賞与等引当金	397	376	21
その他	62	64	▲ 2
負債合計	40,808	41,348	▲ 540
(臨時財政対策債を除いた負債額)	21,942	21,934	(8)
純資産の部			
純資産	3,583	3,043	540
純資産合計	3,583	3,043	540
負債及び純資産合計	44,391	44,391	▲ 0

※（ ）内は、地方債のうち臨時財政対策債を除いた金額です。

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント（前年度比較）

- 資産のうち、有形固定資産は、令和5年度中に資産形成に投じた経費よりも資産の減価償却費が上回ったこと等により 144 億円減少した一方で、投資その他の資産は、基金が増加したことなどにより 54 億円増加し、結果として、固定資産は 90 億円の減少となりました。

一方で、流動資産は、翌年度の財源などに活用するため、財政調整基金等への積立を行ったことなどにより、90 億円の増加となりました。

この結果、資産総額では、前年度とほぼ同額となりました。

- 負債のうち、固定負債は、定年引上げ等に伴う退職手当引当金の増などにより、158 億円の増加、一方、流動負債は、1 年以内に償還時期を迎える地方債が減少したことなどにより、698 億円の減少となりました。

この結果、負債総額では 540 億円減少しました。なお、臨時財政対策債残高を除くと、負債額は 8 億円増となります。

- 純資産合計は 3,583 億円となり、前年度と比較して 540 億円増加しました。

- 県民1人当たりについて見ると、資産は1千円減の70万3千円（④70万4千円）となっています。一方で、負債は8千円減の64万7千円（④65万5千円）となっています。

なお、臨時財政対策債を除いた県民1人当たりの負債は、前年度と同額の34万8千円（④34万8千円）となっています。

(2) 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、行政サービスに伴い発生する人件費や物件費などのコストと、行政サービスの直接の対価として得られた使用料・手数料収入などとの関係を表したものです。

これにより、経常的な行政サービスに関して税金などで賄うべき行政コスト（純経常行政コスト）が明らかになります。

□令和5年度決算の行政コスト計算書 (単位：億円)

区分	令和5年度
経常費用 (A)	15,782
1 業務費用	8,137
(1) 人件費	5,151
① 職員給与費	4,328
② 賞与等引当金繰入額	397
③ 退職手当引当金繰入額 等	426
(2) 物件費等	2,484
① 物件費	1,230
② 維持補修費	442
③ 減価償却費 等	812
(3) その他の業務費用	503
① 支払利息	191
② 徴収不能引当金繰入額 等	312
2 移転費用	7,644
(1) 補助金等	6,769
(2) 社会保障給付	503
(3) 他会計への繰出金 等	372
経常収益 (B)	691
使用料・手数料等	691
純経常行政コスト (C) = (A) - (B)	15,091
臨時損失 (D)	22
1 災害復旧事業費	7
2 資産除売却損	5
3 投資損失引当金繰入額 等	12
臨時利益 (E)	18
1 資産売却益	4
2 その他	14
純行政コスト (F) = (C) + (D) - (E)	15,095

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント

- 行政サービスのコストについては、教職員や警察官の人件費、市町村や各種団体への補助金等が大きな割合を占めています。
使用料・手数料など、県が行政サービスの直接の対価として得ている**経常収益は、経常費用の4.4%**であり、大部分は県税や地方交付税などにより賄われています。
- **人件費は**、県職員のほか、県立学校や市町村立学校の教職員、警察官の人件費であり、**5,151億円**となりました。
- **移転費用は**、社会保障関係経費や市町村への交付金など、県民や他団体等への支出金であり、**7,644億円**となりました。そのうち、**補助金等は**、「病床確保支援事業」等の新型コロナウイルス対策経費が大幅に減少したことなどから、**6,769億円**となりました。
- 経常収益や臨時損益を含めた**純行政コストは1兆5,095億円**となり、また、**県民1人当たりの純行政コストは、23万9千円（④26万1千円）**となりました。

【用語の説明】

- ・ **経常費用**…毎会計年度、経常的に発生する費用を計上しています。
- ・ **経常収益**…収益に該当するもののうち、毎会計年度、経常的に発生する収益を計上しています。
- ・ **人件費**…県職員だけでなく、県立学校や市町村立学校の教職員、警察官の人件費です。当該年度の歳出のほか、退職手当及び期末勤勉手当については、翌年度以降に支払うべき額のうち、当該年度の勤務に対応する分をそれぞれ引当金繰入額として計上しています。
- ・ **物件費等**…旅費や備品購入費、委託料などの「物件費」、資産の機能維持に必要な「維持補修費」、固定資産に係る時の経過等に伴う資産価値の減少である「減価償却費」などを計上しています。
- ・ **その他の業務費用**…上記以外の行政コストです。地方債と一時借入金の利息や、県が有する債権のうち、当該年度に新たに将来の回収が見込まれなくなった額を「徴収不能引当金繰入額」として計上しています。
- ・ **移転費用**…社会保障給付や補助金など、県民や他団体等への支出金です。
- ・ **臨時損益**…経常的でない特別な事由に基づく損益が発生した場合に計上しています。災害復旧事業費、資産の売却等に伴う帳簿価額と売却額との差額などのことです。
- ・ **純行政コスト**…一会計期間中の費用から収益を控除したものです。

(3) 純資産変動計算書

純資産変動計算書は会計期間中の期首から期末への純資産の変動要因を表したものです。

□令和5年度決算の純資産変動計算書

(単位：億円)

区分	令和5年度
前年度末純資産残高	3,043
純行政コスト(▲)	▲ 15,095
財源	15,614
税金等	13,005
国県等補助金	2,608
本年度差額	519
資産評価差額	0
無償所管換等	22
本年度純資産変動額	540
本年度末純資産残高	3,583

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント

- 新型コロナウイルス感染症に対応するための経費の減により純行政コストが減少したことなどから、本年度末純資産残高は、前年度末に比べ 540 億円増の 3,583 億円となりました。
- さらに、令和5年度に発行した臨時財政対策債 461 億円が、仮に全額地方交付税として交付されていた場合には、(税金等が 461 億円増加するため) 純資産残高は 1,001 億円増の 4,044 億円となります。

【用語の説明】

- ・前年度末純資産残高、本年度末純資産残高…貸借対照表における前年度末及び当該年度末の純資産残高です。
- ・純行政コスト…行政コスト計算書における純行政コストです。
- ・財源…地方税、地方交付税、地方譲与税を「税金等」とし、国庫支出金及び都道府県支出金を「国県等補助金」とに区分しています。なお、財産収入や、諸収入、行政サービスの直接の対価である収入(使用料・手数料など)、貸借対照表における資産・負債の増減を伴う収入(貸付金・投出資金の回収・売却による収入など)は除きます。
- ・資産評価差額…「出資金等の資産」と「その出資先の団体等の純資産に占める県の出資分」との差額です。
- ・無償所管換等…無償で譲渡又は取得した固定資産の評価額等のことです。

【他財務書類との関係】

- ・「純行政コスト」は、「行政コスト計算書」で計算した結果が記載されます。
- ・また、この純資産変動計算書の結果である、「今年度末純資産残高」は、貸借対照表の純資産の値と一致します。

(4) 資金収支計算書

資金収支計算書は、経常的な行政経費や資産形成に係る経費などの行政活動区分ごとに、1年間の現金預金の変動要因を表したもので、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に相当するものです。

□令和5年度決算の資金収支計算書

(単位：億円)

区分	令和5年度
業務支出	14,972
1 業務費用支出（人件費、物件費等）	7,328
2 移転費用支出（補助金等、社会保障給付等）	7,644
業務収入（税収等、補助金等）	16,156
臨時支出	7
臨時収入	0
業務活動収支（①）	1,178
投資活動支出（公共施設等整備費、基金積立等）	4,475
投資活動収入（補助金等、基金取崩収入等）	3,989
投資活動収支（②）	▲ 486
財務活動支出（地方債償還）	3,957
財務活動収入（地方債発行）	3,249
財務活動収支（③）	▲ 708
本年度資金収支額（①+②+③）	▲ 16
前年度末資金残高	359
本年度末資金残高	343
前年度末歳計外現金残高	59
本年度歳計外現金増減額	▲ 4
本年度末歳計外現金残高	55
本年度末現金預金残高	398

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント

- 1年間の行政活動の結果、令和5年度中に**歳計現金が16億円減少し、本年度末資金残高は343億円となりました。**これに、預り金等の**歳計外現金残55億円を加え398億円が、本年度末現金預金残高となりました。**

【用語の説明】

- ・ **業務活動収支**…経常的な行政活動に係る資金収支のことです。具体的な支出項目には、人件費、物件費、補助金等などがあり、収入項目には、地方税、地方交付税などの税収等収入や補助金収入、使用料・手数料などがあります。
- ・ **投資活動収支**…投資及び出資金、貸付金、基金に係る支出とその財源や、貸付金元金回収による収入などを計上しています。支出項目には公共資産整備に伴う支出、基金への積立に係る支出、貸付金支出を計上します。収入項目には、補助金等収入、基金取崩収入、貸付金元金回収収入などを計上します。
- ・ **財務活動収支**…主に、地方債の発行や償還の収支などを計上しています。
- ・ **歳計現金**…当該年度の歳入決算総額から歳出決算総額を差し引いた額（形式収支）のことで、資金残高と一致します。
- ・ **歳計外現金**…特別徴収した県職員分の市町村民税や、県営住宅の敷金など、県の所有に属さない現金のことです。

3 連結財務書類

県の普通会計及び公営事業会計 9 会計の 10 会計、県の関係団体である一部事務組合等 3 団体、地方公社 3 団体、第三セクター等 27 団体の 33 法人、合わせて 43 会計・法人について、会計・法人間の内部取引を相殺した上、連結財務書類を作成しています。

□本県における連結財務書類の対象範囲

一般会計等（普通会計）	一般会計		普通会計	公営事業会計を含めた県全体	連結		
	特別会計	財政調整基金					
		県債管理事業					
		自動車税証紙					
		地方消費税清算					
		市町村振興基金					
		母子父子寡婦福祉資金					
		心身障害者扶養年金基金事業					
		日本コンベンションセンター国際展示場事業					
		小規模企業者等設備導入資金					
		就農支援資金					
		営林事業					
		林業・木材産業改善資金					
		沿岸漁業改善資金					
		奨学資金					
		国民健康保険事業					
		公営事業会計	公営企業会計			上水道事業	
						工業用水道事業	
						病院事業	
						造成土地管理事業	
流域下水道事業							
工業団地整備事業							
港湾整備事業							
土地区画整理事業							
一部事務組合・広域連合	北千葉広域水道企業団						
	かずさ水道広域連合企業団						
	千葉県競馬組合						
地方公社・第三セクター等	千葉県道路公社						
	千葉県土地開発公社						
	千葉県住宅供給公社						
	その他・第三セクター等（27団体）						

※特別会計公営競技事業については、平成 28 年度末に廃止したため、平成 29 年度決算から対象に含んでいません。

※国民健康保険事業については、平成 30 年度決算から新たに対象となっています。

※千葉県漁業信用基金については、比例連結割合の変更があったため、令和元年度決算から対象に含んでいません。

※流域下水道事業については、令和 2 年度会計から「公営企業会計」として新たに対象となっています。

※千葉県社会福祉事業団については、令和 5 年度に清算が完了したため、令和 5 年度決算から対象に含んでいません。

(1) 貸借対照表（バランスシート）

□令和5年度決算の貸借対照表（令和6年3月31日現在）

（単位：億円）

区分	全体貸借対照表			連結貸借対照表		
	令和5年度	令和4年度	比較	令和5年度	令和4年度	比較
固定資産	60,857	60,629	228	62,974	62,720	255
有形固定資産	43,521	43,502	19	45,263	45,238	24
無形固定資産	2,062	2,107	▲ 46	2,316	2,367	▲ 50
投資その他の資産	15,274	15,020	254	15,395	15,115	280
流動資産	5,021	4,847	175	5,474	5,287	187
資産合計	65,878	65,476	402	68,448	68,007	441
固定負債	45,247	44,978	269	46,523	46,242	281
流動負債	4,483	5,249	▲ 766	4,719	5,499	▲ 779
負債合計	49,730	50,227	▲ 497	51,242	51,741	▲ 499
純資産	16,148	15,249	899	17,206	16,266	940

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント

- 普通会計に、県立病院、企業局といった公営事業会計を含めた全体貸借対照表では、資産総額は6兆5,878億円（④6兆5,476億円）、負債総額は4兆9,730億円（④5兆227億円）で、純資産総額は1兆6,148億円（④1兆5,249億円）です。
- 公営事業会計を含めた県全体の全体貸借対照表に、県と連携協力して行政サービスを実施している一部事務組合・地方三公社及び第三セクター等を加えた連結貸借対照表では、資産総額は6兆8,448億円（④6兆8,007億円）、負債総額は5兆1,242億円（④5兆1,741億円）で、純資産総額は1兆7,206億円（④1兆6,266億円）です。
- 有価証券の評価額の増などにより、全体では、資産総額は402億円増加した一方で、負債総額は497億円減少、連結では、資産総額は441億円増加した一方で、負債総額は499億円減少しています。
- 連結貸借対照表の資産・負債について、県民1人当たりの額を見ると、資産は108万5千円（④107万8千円）で、負債は81万2千円（④82万円）となっています。

(2) 行政コスト計算書

□令和5年度決算の行政コスト計算書

(単位：億円)

区分	全体行政コスト計算書	連結行政コスト計算書
経常費用	22,233	23,034
1 業務費用	10,029	10,809
(1) 人件費	5,513	5,622
(2) 物件費等	3,874	4,023
(3) その他業務費用	643	1,164
2 移転費用	12,204	12,225
(1) 補助金等	11,675	11,707
(2) 社会保障給付	503	489
(3) その他移転費用 等	26	29
経常収益	2,286	3,088
(1) 使用料・手数料等	2,286	3,088
純経常行政コスト	19,947	19,947
臨時損失	47	50
臨時利益	32	38
純行政コスト	19,962	19,959

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント

- 公営事業会計を含めた全体の純経常行政コストは1兆9,947億円(④2兆1,372億円)であり、前年度と比べて1,425億円の減となりました。また、臨時損益も含めた全体の純行政コストは1兆9,962億円(④2兆1,394億円)となりました。
- 連結の純経常行政コストは1兆9,947億円(④2兆1,349億円)となり、また、連結の純行政コストは1兆9,959億円(④2兆1,373億円)となりました。
- 県民1人当たりでは、全体の純行政コストは31万6千円(④33万9千円)、連結の純行政コストは31万6千円(④33万9千円)となりました。

(3) 純資産変動計算書

□令和5年度決算の純資産変動計算書

(単位：億円)

区分	全体純資産変動計算書	連結純資産変動計算書
前年度末純資産残高	15,249	16,266
純行政コスト(▲)	▲ 19,962	▲ 19,959
財源	20,588	20,618
税収等	16,497	16,520
国県等補助金	4,091	4,098
本年度差額	627	659
資産評価差額	218	219
無償所管換等	42	42
その他	13	20
本年度純資産変動額	899	940
本年度末純資産残高	16,148	17,206

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント

- 本年度末純資産残高は、前年度末純資産残高と比べ全体純資産残高は 899 億円増の 1 兆 6,148 億円、連結純資産残高は 940 億円増の 1 兆 7,206 億円となりました。

(4) 資金収支計算書

□令和5年度決算の資金収支計算書

(単位：億円)

区分	全体資金収支計算書
業務支出	20,954
1 業務費用支出(人件費、物件費等)	8,751
2 移転費用支出(補助金等、社会保障給付等)	12,204
業務収入(税収等、補助金等)	22,580
臨時支出	7
臨時収入	0
業務活動収支	1,619
投資活動支出(公共施設等整備費、基金積立等)	5,257
投資活動収入(補助金等、基金取崩収入等)	4,177
投資活動収支	▲ 1,079
財務活動支出(地方債償還等)	5,214
財務活動収入(地方債発行等)	4,746
財務活動収支	▲ 468
本年度資金収支額	71
前年度末資金残高	2,532
本年度末資金残高	2,604
前年度末歳計外現金残高	59
本年度歳計外現金増減額	▲ 4
本年度末歳計外現金残高	55
本年度末現金預金残高	2,658

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

主なポイント

○ 令和5年度中に資金が71億円増加し、令和5年度末資金残高は2,604億円となりました。

また、歳計外現金と合わせた令和5年度末現金預金残高は2,658億円となりました。

※連結資金収支計算書については、総務省の「統一的な基準による地方公会計マニュアル」により、当分の間は作成しないことが許容されています。

【参考１】固定資産台帳の概要

固定資産台帳

普通会計

(単位：億円)

資産負債区分名称	取得価額等	減価償却累計額	期末簿価
事業用資産	15,682	7,030	8,653
土地	5,493	0	5,493
立木竹	108	0	108
建物	8,396	5,723	2,673
工作物	1,605	1,278	328
船舶	42	29	13
浮標等	0	0	0
建設仮勘定	38	0	38
インフラ資産	36,738	14,851	21,886
土地	9,732	0	9,732
建物	214	141	73
工作物	24,436	14,677	9,759
その他	36	33	3
建設仮勘定	2,320	0	2,320
物品	445	383	61
有形固定資産 合計	52,865	22,265	30,601

※表示単位未満を四捨五入し端数処理をしているため、合計額と合わない場合があります。

※本表は固定資産台帳を勘定科目ごとに整理したものです。

固定資産台帳は資産毎に記載されています。

資産毎の固定資産台帳は、資産経営課ホームページで公表しております。

【参考2】主な指標の状況

決算統計や地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）に基づく健全化判断比率など、既存の指標に加え、統一的な基準による地方公会計の情報を活用して、地方公共団体が保有する資産・負債等に関する新たな指標を算出することにより、財政状況を多角的に分析することが可能になります。

（全国順位は、統一的なマニュアルに基づき財務諸表を作成した団体の中での順位）

＜資産の状況（将来世代に残る資産はどのくらいあるか）＞

	指 標 名	算 定 式	R3年度決算 (全国順位)	R4年度決算 (全国順位)	R5年度決算
1	住民一人当たり資産額	資産合計／住民基本台帳人口	69.5万円 (46/47)	70.4万円 (46/47)	70.3万円
2	歳入額対資産比率	資産合計／歳入総額	1.57年 (44/47)	1.79年 (38/47)	1.87年
3	有形固定資産減価償却率 (資産老朽化比率)※1	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{有形固定資産合計}-\text{土地等非償却資産}+\text{減価償却累計額}}$	60.6% (24/47)	62.1% (24/47)	63.0%

※1…物品は含まない（非償却資産として取り扱うこととされている）

＜負債の状況（財政に持続可能性があるか（どのくらい借金があるか））＞

	指 標 名	算 定 式	R3年度決算 (全国順位)	R4年度決算 (全国順位)	R5年度決算
4	住民一人当たり負債額	負債合計／住民基本台帳人口	65.8万円 (4/47)	65.5万円 (4/47)	64.7万円
5	基礎的財政収支 (プライマリーバランス)	業務活動収支（支払利息除く） ＋投資活動収支（基金積立支出・取崩収入除く）	115,609百万円 (7/47)	103,928百万円 (7/47)	109,889百万円
6	債務償還比率（※2）	$\frac{\text{将来負担額}-\text{充当可能財源}}{\text{経常一般財源等}-\text{経常経費充当財源等}}$	7.7年	11.2年	11.8年

※2…債務償還比率は、当面参考指標とすることとされており、各団体の数値は総務省HPでは公表されていないため、順位は不明。

＜資産と負債の比率（将来世代と現世代との負担の分担は適切か）＞

	指 標 名	算 定 式	R3年度決算 (全国順位)	R4年度決算 (全国順位)	R5年度決算
7	純資産比率	純資産／資産合計	5.4% (41/47)	6.9% (40/47)	8.1%
8	将来世代負担比率	$\frac{\text{地方債残高（特例地方債（※3）除く）}}{\text{有形・無形固定資産合計}}$	62.8% (34/47)	64.3% (34/47)	64.8%

※3…特例地方債は、臨時財政対策債、減収補てん債特例分、減税補てん債、臨時税収補てん債、臨時財政特例債を言う。

＜行政コストの状況（行政サービスは効率的に提供されているか）＞

	指 標 名	算 定 式	R3年度決算 (全国順位)	R4年度決算 (全国順位)	R5年度決算
9	住民一人当たり行政コスト	純行政コスト／住民基本台帳人口	29.3万円 (2/47)	26.1万円 (2/47)	23.9万円

＜受益者負担の状況（行政サービスの提供に対する受益者負担の水準はどうか）＞

	指 標 名	算 定 式	R3年度決算 (全国順位)	R4年度決算 (全国順位)	R5年度決算
10	受益者負担比率	経常収益／経常費用	3.6% (22/47)	4.1% (15/47)	4.4%

- ⇒ ・住民一人当たりでみると、資産・負債・純資産のいずれも大きくはない
 ・行政コストも全国的に見て小さく、比較的効率の良い行政運営が行われている状況